

会津レクリエーション公園

国道49号沿いに整備された広域公園です。1986年から20年の歳月をかけて、全面開園となりました。キャッチフレーズは『見て、ふれて、遊んで・・・ここには「会津の自然」があります』です。

敷地面積43.7haという広大な敷地に、会津の雄大な自然を観察出来る「自然観察園」「林地観察園」「湿地観察園」「湿性自然生態園」。4haの芝生広場の「多目的スポーツイベント広場」、500台の駐車スペース。



文章・イラスト出典：福島県会津若松建設事務所HP

磐梯山

猪苗代湖の北にそびえる標高1,819メートルの活火山です。会津富士、会津磐梯山とも呼ばれています。

「会津磐梯山は宝の山よ・・・」と民謡にうたわれている磐梯山は、福島県のシンボルです。猪苗代湖の北側にそびえており、湖面に美しい姿をうつしています。

1888（明治21年）年の大爆発で、山の形やまわりの地形は、それ以前にくらべ大きく変化しました。表磐梯とよばれる猪苗代湖側からのながめはおだやかですが、北側の裏磐梯からの景色は荒々しく感じられます。

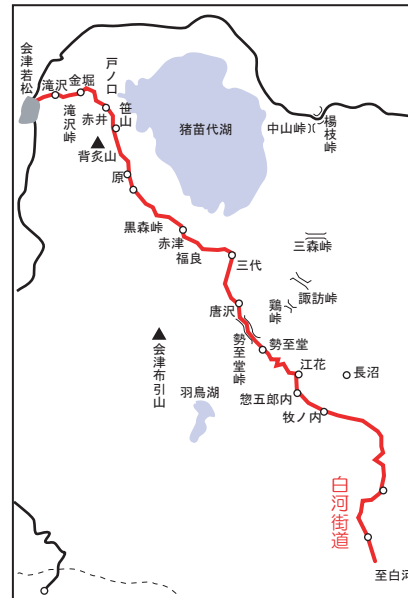


文章出典：「ビジュアルワイド 新日本風土記7 福島県」ぎょうせい

白河街道

白河、勢至堂、湖南を経て、強清水傍の穴切で二本松裏街道と合流し、会津へとつながるのが白河街道です。

白河と会津を結ぶルートは中世、あるいはそれ以前からあったに違いないが、推測してみるしかない。中世芦名氏が岩瀬郡に兵を出しているが、どのルートかは分からない。



しかし天文十四年（1545）に芦名盛氏（もりうじ）が勢至堂峠を切り開き、勢至堂村を開設したことによって、会津～背あぶり山～湖南～勢至堂を経て白河へのルートが、ほぼ出来上がったものと考えられている。次いで天正十八年（1590）七月三日、豊臣秀吉は「当表（小田原）より会津まで、横三間之海道これを作るべきこと」と命令を出して、五人の道作奉行を選任し、伊達政宗も工事にあたっている。

文章出典：「歴春ブックレット5 会津の街道」酒井淳・歴史春秋社

歴史を歩いて訪ねてみませんか？



写真：十六橋水門

十六橋水門周辺 散策マップ



副読本

十六橋水門周辺散策マップの15の主要なスポットについて書かれた副読本です。

2 旧滝沢本陣

戊辰戦争の際、会津藩藩主松平容保（かたもり）公がここに本陣を敷きました。

若松城下から飯盛山へ至る道は、会津から白河へとつながる白河街道でした。この街道沿いの滝沢峠入り口に本陣が設けられたのは、寛文年間（1661～1673年）のことです。以来、歴代の藩主は領内の巡視や参勤交代のときに、休憩や江戸へむかう旅装をととのえる場として用いました。

茅葺きの屋根におおわれた書院づくりの建物は、国の重要文化財に指定され、御入御門、御座の間、御次の間などが当時の姿のまま残されており、さらに歴代藩主の愛用した身回り品、参勤交代の道具類、古文書なども保管されています。

戊辰戦争では、藩主松平容保が前線激励のため自ら滝沢に陣を敷きました。そのおりに護衛としてついたのが白虎隊で、隊士はここから出陣の命を受け戸ノ原戦場へと向かいました。建物のあちらこちらには弾痕や刀傷があり、当時の戦いの痕跡をとどめています。



文章出典：会津若松市役所HP

十六橋水門

安積疏水を整備する際、猪苗代湖の水位を調整するために日橋川に1880年に建設された水門です。

伝説 空海が石塚16基に丸太を渡した橋。

会津藩が採録した風土記には、「戸ノ川（銚子ノ口）に架す、十六断ありと云、・・・中流に塚の如くに石を累（かさ）ね築き、其間に丸太を並て橋とし、相伝て空海（弘法大師）の作と云・・・」とあり、橋名「十六橋」の起源ともいえます。



文章・画像出典：福島県喜多方建設事務所作成のパンフレット

江戸時代 欄干付き23径間の総石づくり。

1786～88年、会津藩は近隣から採取された自然の材木岩（柱状節理）を運び、丸太橋に替えて長さ三十三間（約60m）23径間の石橋を架けました。

戊辰戦争（1868年）、時の会津兵は進撃してくる維新政府軍の進路を絶つべく、この橋の撤去を試みましたが、あまりに堅牢なために撤去に手間取り、その間に維新政府軍の進撃を許したとされています。

猪苗代湖

福島県のほぼ中央に位置しており、別名「天鏡湖」と呼ばれる日本4番目の面積を有する湖です。

猪苗代湖は福島県のほぼ中央部、磐梯山の南の麓にあります。標高514メートルの高さにある湖で、面積は104平方キロメートルあり、日本で4番目に大きい湖です。長瀬川から流れ込む水は強い酸性でプランクトンが少ないため、猪苗代湖は魚の育成にはあまり適していません。

しかし、冬でも湖面が凍らないことから、大量の水は四季を通じてかんがいや発電に利用されています。湖に接する会津若松市、猪苗代町、郡山市の二市一町がそれぞれ分担して猪苗代湖を管理し、湖と湖岸の整備につとめています。

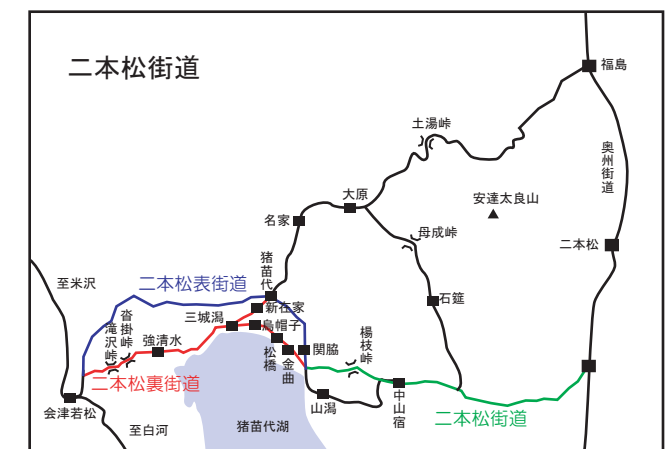


文章出典：「ビジュアルワイド 新日本風土記7 福島県」ぎょうせい

二本松街道

二本松街道は、会津五街道（白河街道、南山通り、越後街道、米沢街道、二本松街道）の一つです。表街道と裏街道の2つがあります。

若松城下から滝沢峠を越えて、金堀、強清水、戸ノロ、西久保、三城湯を経て新在家、島田、百目貫から猪苗代城下に至り二本松街道に合流するものと、もう一つ、三城湯を東進し、烏帽子、松橋、金曲を経て関脇に至り二本松街道に合流する街道があった。大寺経由を二本松表街道と呼ばれるのに対して、三城湯経由を二本松裏街道と呼んでいた。



文章出典：「新版 会津の峠 上」 笹川嘉夫・歴史春秋社